

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	商工業振興に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	2	
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	街路灯のLED化について、街路灯を有している10商店会のうち、5商店会が「検討中」、1商店会が「予定なし」としている。今後、令和元年度予算編成時期前を目的に、「検討中」としている5商店会に対し、LED化に伴う補助制度及びメリット、事例等の情報提供等を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	地域の活性化につながる事業費を確保するため、商店会の固定費を抑え、街路灯(水銀灯)のLED化を推進する。 また、継続実施している、市主催のにぎわい広場事業については、発信できる情報を集め、他機関と連携を図るなど、創意工夫しながら開催する。
②①に基づく取組み結果	街路灯のLED化について、予算要望前に商店会に情報提供を行ったところ、1つの商店会から街路灯LED化についての要望があり、令和元年度予算に計上した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	商工会、商店会連合会、ドリームカード会、市内14商工業振興団体	意図(対象をどうするのか)	補助金の交付を通じて商店街等の振興を図る。
②事務事業の概要	市内に存在する企業の大半を占める中小企業や経済活動を行う団体に対して、補助金の交付やイベントの共同事業などで支援を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	全庁的に補助金の見直しが行われた昭和63年に、商工会等の活性化及び育成のため創設された。ここ数年では、大型店や全国展開チェーンの出店や、ネット通販の台頭により、既存の商店街は厳しい立場に置かれている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	商工会及び商店街の活性化・育成を図るために補助金の支出を行った。産業フェスティバルにおいては、福太郎アリーナの提供による「場所的支援」とともに、産業フェスティバル当日に職員を派遣するなど「人的支援」を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	補助金交付額	28,874	21,911	21,814	千円	業務取得
	ii						
iii							
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	23,037	22,274	金額(千円) 内容		23,743		
国支出金(千円)			21,814 商工業振興補助金				
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	23,037	22,274			23,743		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	電気料金の上昇などにより、各商店会で保有する共同施設(街路灯)の維持管理が困難となっている。固定費の支払い増が、商店会運営の圧迫に繋がっている。また課題として、事業継承と併せて、組織の世代交代もあげられている。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	「場所的支援」「人的支援」以外の支援について、補助金交付事務の中で検討し、より商工業振興団体の現状に則した支援を可能にする。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H29→30繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由				
	令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	空き店舗活用事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	2	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業者間の連携を図るため、空き店舗活用事業者による交流会を開催する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	募集要項を一部改訂し、本補助金のPRに繋げる。
②①に基づく取り組み結果	6/23に空き店舗活用補助金活用者を対象とした交流会を開催した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に出店しようとする者	意図(対象をどうするのか)	店舗数の増加による地域の活性化
②事務事業の概要	賑わいの創出を図るため、商店街の空き店舗を活用し、出店する人に対し、店舗改装費等の総額2分の1(上限100万円)を補助する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市内商店会については、売上減少や後継者問題等により店舗の閉店が増加し、シャッター街化している商店会が少なくない。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	5件の補助金交付決定をした。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	補助金交付件数	5	5	5	件	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	4,512	5,000	金額(千円)	内容	5,000		
国支出金(千円)			5,000	空き店舗活用補助金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	4,512	5,000			5,000		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	依然として、市内には多くの空き店舗があり、空き店舗の解消に向け取り組んでいくほか、本事業が賑わいの創出に繋がっているか検証する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	商店街の空き店舗を活用し、集客に役立つ施設及び店舗の開店など、賑わいの創出を図っていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	補助金	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金を支出した。	5,000	5,000	当初	5,000	5,000	H29からの繰越
				H29⇒30繰越			現年分
③達成状況	完了			補正			
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
令和元年度への繰越額(単位:千円)							0

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	観光ビジョン推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	7	1	4	○
政策	33活力ある産業を育成します	担当課室	商工振興課			
施策	332魅力ある商業の育成	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き、観光ビジョンに掲げた施策を推進するとともに、地方創生推進交付金を活用した北海道及び沖縄県でのトップセールスを実施することで、ファイターズを共有資源とする自治体との連携強化、遠隔地での認知度向上を図る。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	鎌ヶ谷市をPRすることを念頭に、北海道日本ハムファイターズを共有資源とする北海道や沖縄県にある自治体との連携強化に加え、タウンミーティングを開催し、市民が観光振興に参加できる体制を構築する。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたインバウンド観光対策として、訪日外国人おもてなし講座を開催することで市民の観光意識の醸成を図る。
②①に基づく取り組み結果	ファイターズを共有資源とする北海道(夕張市)や沖縄県国頭村にて、市長によるトップセールスを実施し、市のPRを行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民及び市内事業者	意図(対象をどうするのか)	事業を通して市民・市内事業者の郷土愛を育て、市外住民へのおもてなしの心を醸成する。
②事務事業の概要	鎌ヶ谷市観光ビジョンに沿った観光振興策により、まちの活性化を図る。(北海道観光イベント・沖縄観光イベント、観光タウンミーティング、高校生フォトコンテストなど)			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	市民や事業者を巻き込んだ事業が増加していく中で、今後市民が自立的に活動を広めていくことが理想的である。こういった市民の活動に対する支援施策の検討なども必要と考えられる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	ファイターズを共有資源とする北海道(夕張市)や沖縄県国頭村にて、市長によるトップセールスを実施し、市のPRを行った。また、本市をはじめ県内の観光資源の魅力を見直し、高校生フォトコンテストを開催し、市内の応募作品が増加した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	高校生フォトコンテスト応募作品数	130	204	270	作品	業務取得
	ii	北海道、沖縄県での観光イベント実施回数	2	2	2	回	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	5,417	5,673	金額(千円)		内容		5,518
国支出金(千円)	2,493	2,130	324		北海道観光イベントブース借上料		2,625
県支出金(千円)			2,017		商工業振興補助金		
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,924	3,543					2,893

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市民や事業者を巻き込んだ事業が増加していく中で、今後市民自らが自発的に市の魅力を広めていく体制を整えていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	1低い	
③上記評価の理由	観光ビジョンの実現に向けて、より具体的に施策を推進していく必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	・インバウンドや観光ガイドマップ作成等 ・札幌・沖縄観光イベント等	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	インバウンド、北海道及び沖縄県でのトップセールス等	6,102	6,102	当初	6,102	5,673	H29からの繰越	
				補正			現年分	5,673
③達成状況	完了							
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円)					0	